

安全データシート (SDS)

印刷日：2015年12月18日

改訂版数：3

最終改訂日：2015年12月17日

1. 製品名および会社情報

製品名 モノタロウ ポリエチレン袋
会社名 株式会社 MonotaRO
所在地 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町 2-183 リベル 3 階
担当者名 商品お問合せ窓口
電話番号 0120-443-509
FAX 番号 0120-289-888
緊急連絡先 所在地と同じ
整理番号 M181002

2. 危険有害性の要約

本製品中に添加物がある場合、熱可塑性樹脂マトリックス内で結合している。GHS の製品分類関連箇所に従い、熱可塑性樹脂の各構成成分の物理化学的性状および生物学的利用能、もしくはそのいずれかの観点から危険有害性を評価することがある。

以下に示す GHS 分類は、熱可塑性樹脂マトリックス内の各構成成分に基づいている。典型的な条件下で樹脂を使用する場合、作業場で有害成分がばく露される可能性は低い。安全データシートを最後まで読み EHS（環境・安全労働衛生）の専門家の話を聞き、内容を完全に理解すること。

国連「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」(国連 GHS) に基づく分類

GHS 分類

危険有害性なし 分類されない

GHS ラベル表示

GHS ラベル表示は不要

注意事項：

GHS に特化した注意事項は特に必要ない。本 SDS に記載の警告、取扱い上の注意に従うこと。

その他、分類されない危険有害性：

緊急事態に関する概要

- ・ペレット状の場合、臭いは僅かまたはなし。
- ・こぼれた場合、床が滑りやすくなることもあり、危険。
- ・燃焼すると高濃度かつ毒性のある煙が発生するおそれ。
- ・溶けたプラスチックによる重度の火傷のおそれ。
- ・熔融加工時に発生したヒュームにより、眼、皮膚、呼吸管を刺激するおそれ。ばく露が極めて過大な場合、吐き気、頭痛、悪寒、熱の症状のおそれ。上記以外の危険有害性については以下を参照。
- ・研磨、やすりがけ、のこぎりで切るなどの二次加工をした場合、ダストが発生し爆発または呼吸器に障害を起こすおそれあり。

その他の情報： 熔融状態の製品に触れた場合、すぐに冷水で皮膚を冷やすこと。加熱すると有害

ガスを放出するおそれがある。有害ガスは後処理作業でも発生することがある。

加工に関する問題： 加工処理で発生する蒸気により眼、皮膚、呼吸管に刺激が生じるおそれがある。過度にばく露した場合、吐き気、頭痛の症状のおそれがある。蒸気がグリース状に濃縮して換気用管路、型などの表面に付着した場合、皮膚が刺激を受け、または傷付くおそれがある。

健康被害： 医療上の制限：本製品にばく露したことによる健康被害効果は知られていない。ただし、影響を受けやすい人や呼吸器に障害のある一部の人が蒸気成分にばく露した場合、影響を受ける可能性がある。

3. 組成、成分情報

危険有害性情報（H-statements）に関する記載が本節にある場合、全文は第 16 節を参照。

非危険有害成分および、組成割合（濃度）の正確な値は企業秘密であり保留する。

本製品の主成分は高分子量ポリマーであり、危険有害性があるとは考えられていない。本製品に含まれる成分はポリマーマトリックス中に存在しており、危険有害性があるとは考えられていない。

4. 応急措置

吸入した場合： 加熱または燃焼で発生したガスを吸入してしまった場合、新鮮な空気のあるところに移すこと。症状が続く場合、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合： 高温状態の本製品が付着した場合、すぐに皮膚を冷水で洗い冷やすこと。すぐに石けんと多量の水で洗うこと。医師の診察を受けること。

眼に入った場合： すぐに多量の水で洗い流すこと。洗浄した後、コンタクトレンズを外して 15 分以上洗浄を続けること。眼の炎症が続く場合、専門医の診察を受けること。

飲み込んだ場合： 特別な応急手当を必要とするような危険有害性はない。

注意事項： 溶融した本製品が皮膚に付着した場合、多量の水で冷やすこと。固化した本製品はむしり取らない。

5. 火災時の措置

自然発火温度： > 350°C

爆発限界

上限： 未確定

下限： 未確定

適当な消火剤： 粉末消火剤、二酸化炭素、散水または「アルコール」の泡を使用すること。消火剤としては水が最適である。二酸化炭素や粉末消火剤は冷却能力が低く、より大規模な樹脂火災（小さな固まり状または垂れたような状態）を再度引き起こす可能性があるため、一般的には推奨されない。

安全上の理由により不適当な消火剤： 棒状放水をすると火が散らばり、火災が広がる可能性があるため使用しないこと。

特定の危険有害性： 静電気放電の予防措置を取ること。加工処理中、ダストが空气中で爆発性混合物になる可能性がある。分解が起こると刺激性のガスや蒸気が放出される可能性がある。

消防士の特殊保護装置： 火事が発生した場合、独立式呼吸装置を着用すること (EU：NEN- EN137)。

6. 漏出時の措置

人体に関する注意事項： 第8節を参照。こぼれた場合、床面などが非常に滑りやすくなるため、注意すること。

環境に関する注意事項： 原料を表層水や汚水施設に流出させないこと。原料の環境への放出を避けること。

清掃： 掃き取り、シャベルで適当な容器に入れて処分すること。ブラシや圧縮空気を使用して粉末を雲状に発生させないこと。

7. 取扱いおよび保管上の注意

処理： 適切な工場衛生および安全作業に従って扱うこと。機械では適切な排気用の換気と集じんを行うこと。ダストの発生や蓄積を出来るだけ避けること。掃除を日常的に行い、ダストが表面に蓄積しないようにすること。乾燥粉末は移動や混合作業で生じる摩擦によって静電気を発生させる可能性がある。電気アースやボンディング、不活性雰囲気などの適切な予防措置を取ること。

保管： 乾燥した涼しい場所に保管すること。熱源や点火源に近づけないこと。直射日光を避けること。

8. ばく露防止および保護措置

ばく露限界値： 以下に記載のある場合を除き、情報のある成分はない。

* 「メーカー推奨ばく露限界値」が一部の化学物質について定められている。

ばく露を低減させるための技術的対策：

危険有害性のあるガスが発生した場合、独立式呼吸装置を着用すること。加工中に問題が生じた場合に備え、顔の保護具と防護服を着用すること。適切な工場衛生と安全作業法に従って取扱うこと。 機械では排気用の換気を適切に行うこと。

手の保護： 防護手袋を着用すること (EU：NEN-EN374)。高温状態の原料を取扱う場合、熔融状態の樹脂温度に耐えられる、耐熱保護手袋を着用すること。

眼の保護： 横側まである保護メガネを着用すること (EU：NEN-EN165-166)。

呼吸器の保護： 危険有害ガスが発生した場合、独立式呼吸装置を着用すること。換気が不十分な場合、適切な呼吸装置を着用すること (EU：NEN- EN149)。

体の保護： 長袖の衣類を着用すること (EU：340-369-465)。

衛生対策： 使用時は飲食禁止および禁煙。

9. 物理的および化学的性質

物理的状態：	固体
外観：	ペレット
色：	色彩コードと同じ
臭い：	特徴的
融解点・融解範囲：	115～135℃
沸点・沸騰範囲：	300℃以上で分解が始まる
自然発火温度：	>350℃
蒸気圧：	無視できる
密度：	0.91～0.94 g/cm ³
水溶性：	不溶
蒸発率：	無視できる
爆発限界	
上限：	未確定
下限：	未確定
VOC含有率（％）：	無視できる

10. 安定性および反応性

安定性：	大気中では安定。 危険有害な重合は起こらない。
忌避条件：	300℃を超える温度は避ける。加熱した場合、ガス状分解生成物になり、一部危険有害性のあるものもある。製品関連文書で推奨されている溶融温度を超えないこと。高温状態の原料のパージングは、小型、扁平、薄型にして集め、水で急冷すること。本製品を高温状態でバレルに長時間放置しないこと。
危険有害な分解生成物：	推奨加工条件で発生した蒸気には炭化水素、炭素酸化物を僅かに含むことがある。

11. 有害性情報

急性毒性

製品情報：

LD50、経口、ラット： >5000 mg/kg

LD50、経皮、ラビット： >2000 mg/kg

組成に関する情報：

組成情報文書： 利用可能なデータはなし

感作性

呼吸器感作性： 分類されない

刺激：

眼の炎症： 利用可能なデータはなし

主な刺激作用： この物質は一般に刺激作用はなく、皮膚への刺激は軽度である。

亜慢性毒性（28日）

反復経口毒性（28日）： 利用可能な情報はなし

反復皮膚毒性（28日）： 利用可能な情報はなし

亜慢性毒性： 利用可能な情報はなし

慢性毒性

発がん性：	本製品には既知の発がん性化学物質は含まれていないが、以下に別途述べられている場合はこの限りではない。
突然変異誘発効果：	本製品自体に関する利用可能なデータはなし
生殖毒性：	利用可能な情報はなし
発達毒性：	利用可能な情報はなし
神経への効果：	利用可能な情報はなし

特定標的器官毒性 (STOT)

標的器官への効果：	認められていない
-----------	----------

吸引有害性

吸引危険性：	利用可能なデータはなし
--------	-------------

その他関連する有毒性情報

摘要：	毒物学的データは組成の類似する製品から得られた。
特別な研究：	情報なし

12. 環境影響情報

環境毒性効果： 通常の方法で使用した場合の環境被害は知られておらず、また発生するとは考えられていない。小片になると水生生物や土壌生物に影響を与える可能性がある。

その他の情報： なし

13. 廃棄上の注意

残留物、未使用製品から発生する廃棄物： 可能であれば、廃棄や焼却よりリサイクルが好ましい。現地の法規に従い処分すること。

汚染した包装用資材： 空の容器は登録廃棄物運送会社を利用して輸送・運送し、各地域でリサイクルまたは廃棄物処理をすること。

廃棄物処理： リサイクルが推奨される。関連法規制ならびに地方自治体の指示に従い、埋め立てまたは焼却すること。加工の際に発生したヒュームの濃縮物と焼却後の灰を集め、廃棄分類を決定するための試験を行うこと。

14. 輸送上の注意

輸送分類： 現行の輸送指針では輸送上の危険有害物として規制されていない。ただし以下に別途記載がある場合を除く。

<u>IMO / IMDG</u>	規制されていない
<u>ICAO</u>	規制されていない
<u>IATA-DGR</u>	規制されていない
<u>DOT</u>	規制されていない
<u>ADR/RID</u>	規制されていない
<u>ADR</u>	規制されていない

ADN

規制されていない

15. 適用法令

適用法令に関する詳細情報は各国の営業所に請求してください。

国際インベントリー：

TSCA （アメリカ）：	収録されている
DSL （カナダ）：	収録されている
ENCS （日本）：	収録されている
IECSC （中国）：	収録されている
KECL （韓国）：	収録されている
PICCS （フィリピン）：	収録されている
AICS （オーストラリア）：	収録されている
NZIoC （ニュージーランド）：	収録されている
REACH 関連情報：	本製品の REACH 関連情報については、弊社にお問い合わせください。

その他インベントリー関連情報：

上記品目の「収録されている」の意味は、全化学成分が各インベントリーリストに記載されている、および1つまたはそれ以上の成分の認定免除がある、もしくはそのいずれかであるということである。上記品目の「収録されていない」の意味は、1つまたはそれ以上の成分をその国および地域が輸入することおよびそこで製造することが禁止されているということである。物品は登録を免除されているため、各国の化学インベントリーに収録されない。

HMIS 評価

健康障害：0

引火性：1

反応性：0

16. その他の情報

SDS 関連法令等：

シンガポール：シンガポール職場安全衛生法（WSH 法）、WSH 規則および GHS 基準 586 に従う。

中国：中国危険有害化学物質規制規則（法律第 591 号）および GHS 基準 GB15258、GB13698、GB/T16483 等に従う。

日本：労働安全衛生法（2006 年）および GHS 関連基準 JIS Z 7253:2012 に従う。

韓国：労働安全衛生法（韓国雇用労働部）に従う。

台湾：台湾危険有害物質通知および危険有害物質ラベル表示に関する規則（台湾労働問題審議会）および GHS 基準 Z1051 に従う。

タイ：危険有害物質の分類および通知システムに関する工業省通知（B.E. 2555（2012））に従う。

オーストラリア：MSDS の作成に関する国家慣行規範第 2 版 [NOHSC:2011（2003）] に従う。

本文書は上記以外の国および地域にも適用される。

作成：本文書は化学製品の責任ある管理および毒物学の観点から作成された。

免責事項：

この安全データシートには、発行日時点で当社が知り得る限り正しい情報が含まれています。情報は製品の安全な使用、取扱い、処分、保管および輸送のための指針であり、保証の意味も仕様の意味も（暗示的、明示的を問わず）ありません。サプライヤーは法で認められる範囲に限り、この安全データシートに含まれる情報に関するいかなる過失または誤りについても責任を負いません。情報は特定の製品にのみに関連するものであり、他の原料と組み合わせた場合または加工して使用した場合には該当しませんが、特に記載がある場合はこの限りではありません。

安全データシートここまで